

第91回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成23年7～9月期実績・平成23年10～12月期見通し)

1. 調査時点 平成23年9月1日～9月7日
2. 調査対象企業数 179社中回答 178社 回答率 99.4%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	40	40	100.0
建設業	〃	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	53	98.1
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		179	178	99.4

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (TEL. 0146-22-4114、内線 621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 179 企業 (回答率 99.4%) の調査結果です

□ 概 況

今期 (平成 23 年 7~9 月期) の業況判断D Iは△45.0 と、前期比 (平成 23 年 4~6 月期 △50.8) 5.8 ポイント改善した。業種別にみると、建設で6.5 ポイントの低下を除き、製造 15.0、卸売 12.5、小売 8.1、サービスで6.6 ポイントの改善となっている。

売上額、収益判断D Iは、売上額が△25.9 (前期△33.5) で7.6 ポイント改善するも、収益は△17.4 (前期△10.9) で6.5 ポイント悪化している。業種別にみると、売上額は製造・サービス・小売で改善し、建設・卸売で悪化した。収益は製造で12.5 ポイント、小売で6.6 ポイント、サービスで3.1 ポイント上昇、建設で4.2 ポイント低下した。なお卸売は同比横ばいの値となっている。

来期 (平成 23 年 10~12 月期) の予想業況判断D Iは△45.5 と、今期 (△45.0) 実績比 0.5 ポイントの小幅悪化見通しとなっている。業種別にみると、製造で改善、建設、卸売、小売、サービスで悪化を見通している。

【業種別天気図】

業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	23年 1~3月	23年 4~6月	23年 7~9月	23年 10~12月見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

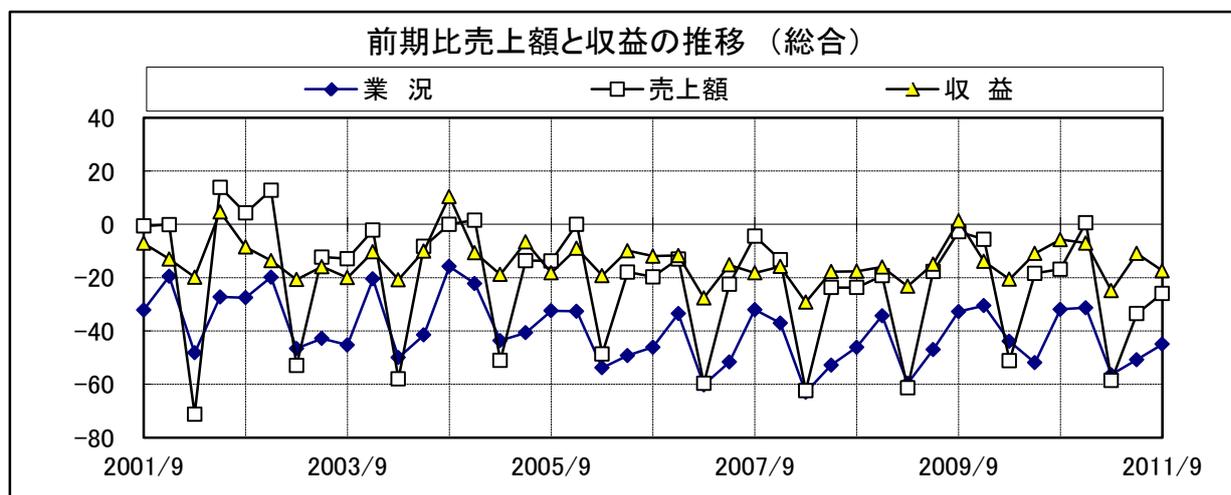
□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-56.4	-50.8	-45.0	-45.5
売上額	-58.6	-33.5	-25.9	-21.4
収 益	-24.9	-10.9	-17.4	-32.6

でマイナス幅が拡大し6.5ポイント悪化した。

全業種総合の今期の業況判断DIは $\Delta 45.0$ と、前期比マイナス幅が縮小、5.8ポイント改善した。地区別にみると、三石地区が悪化し、静内、様似、えりも、広尾地区で改善している。浦河地区はほぼ横ばいの動き。

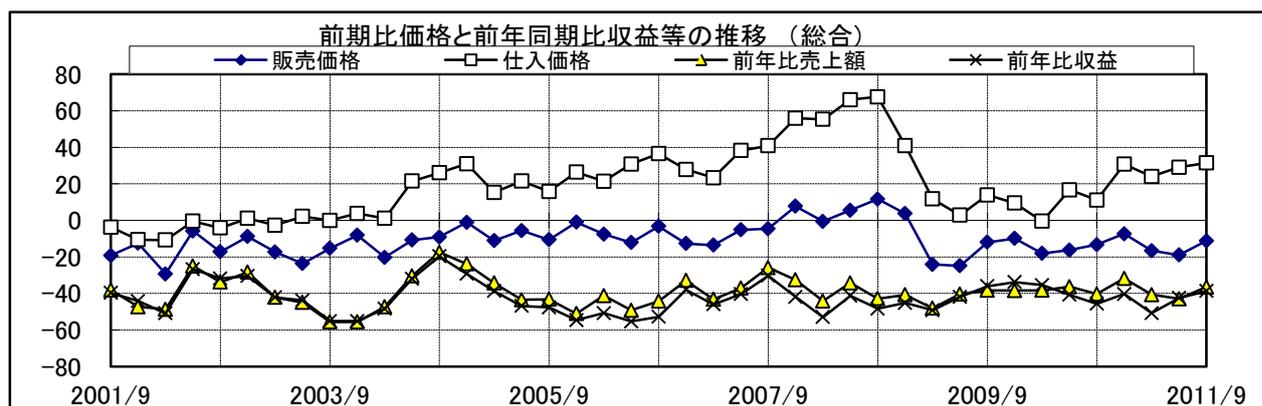
売上額、収益判断DIは、売上額が $\Delta 25.9$ 、前期比マイナス幅が7.6ポイント縮小したものの、収益は $\Delta 17.4$



□ 価格面、前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
販売価格	-16.6	-19.0	-11.2	-6.2
仕入価格	24.0	29.1	31.4	23.0

販売価格判断DI ($\Delta 11.2$)は、前期比マイナス幅が7.8ポイント縮小し価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI (31.4)は、前期比2.3ポイント上昇、価格上昇基調は続いている。業種別にみると、販売価格は製造、建設、卸売、小売で上昇、サービスで低下した。仕入価格は、製造、卸売、小売で上昇、建設、サービスで低下した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-15.1	-17.9	-12.9	-3.9
人手状況	6.1	3.9	1.7	-8.4

残業時間判断DIは $\Delta 12.9$ と、前期比5.0ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が減った。

人手過不足判断DIは1.7と、前期比プラス幅が縮小し2.2ポイント低下、人手過剰感を弱めている。

□ 設備投資の動き

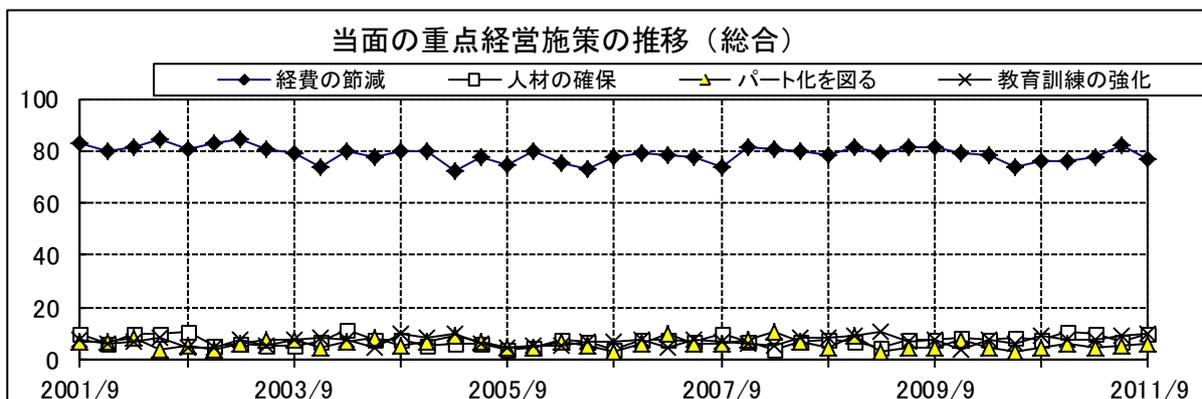
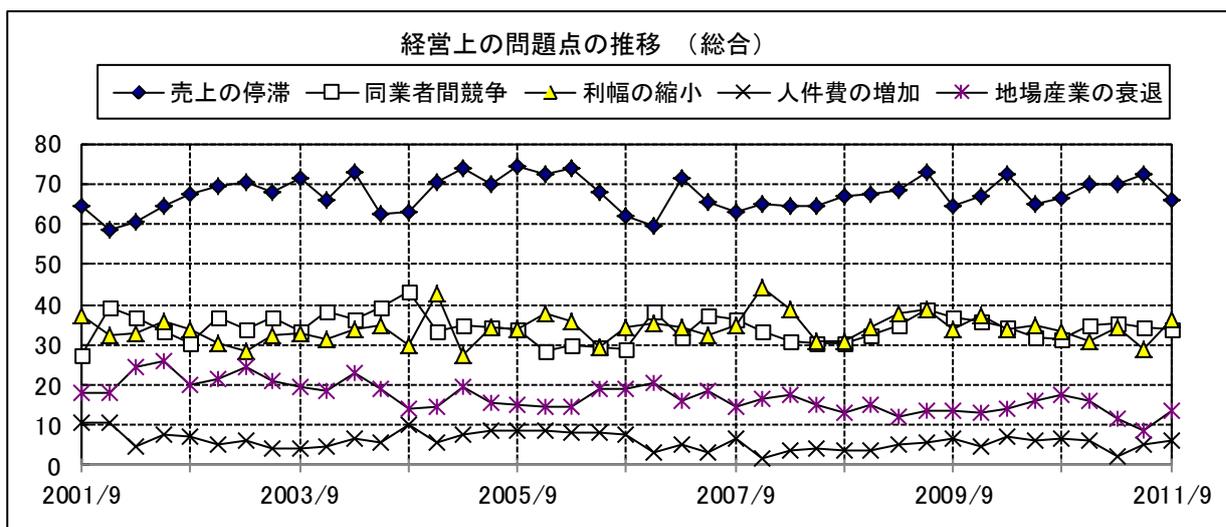
設備投資の充足感を示すDIは $\Delta 10.0$ と前期($\Delta 7.3$)からマイナス幅が2.7ポイント拡大、不足感を強めている。これに対し適正と回答した企業は77.6%と、前期(75.9%)から、1.7ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は19.1%と前期(18.4%)比0.7ポイント上昇。件数で前期の33社に対し34社の実施となった。来期予定は、当期比10社減の24社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が66.1%で最も多く、次いで「利幅の縮小」36.2%、「同業者間の競争」33.9%、「地場産業の衰退」13.8%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」が76.6%で突出している。次いで人材の確保と教育訓練強化が9.6%、パート化を図る6.0%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年10~12月期)の予想業況判断DIは $\Delta 45.5$ と、今期($\Delta 45.0$)実績比0.5ポイントの小幅悪下見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DIは、売上額が $\Delta 21.4$ (今期 $\Delta 25.9$)と、今期実績比マイナス幅が縮小し4.5ポイント上昇見通しにある。一方、収益は $\Delta 32.6$ (今期 $\Delta 17.4$)と、マイナス幅が拡大し15.2ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断DIは、販売価格が $\Delta 6.2$ (今期 $\Delta 11.2$)と、今期実績比マイナス幅が縮小し5.0ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は23.0(今期31.4)と、今期実績比プラス幅が8.4ポイント縮小し、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

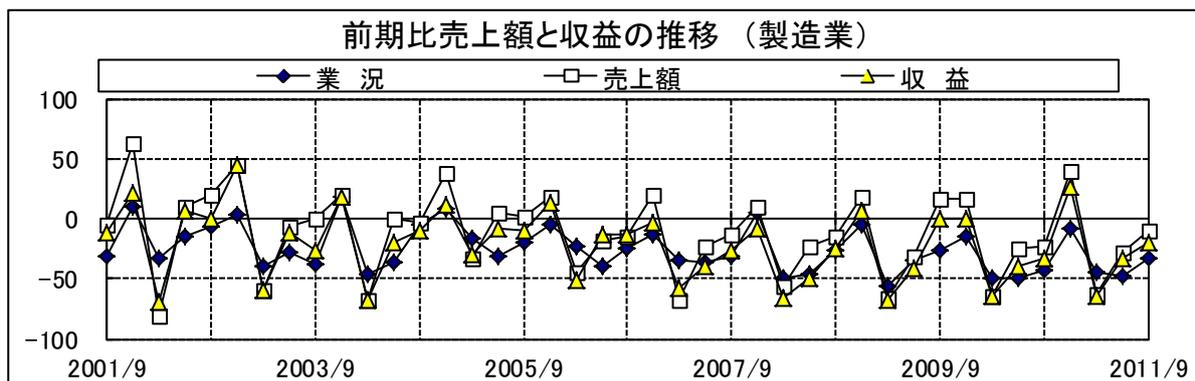
製造業 40 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
業 況	-45.0	-47.5	-32.5	-15.0
売上額	-62.5	-27.5	-10.0	5.0
収 益	-65.0	-32.5	-20.0	-7.5

今期の業況判断DIは△32.5 と、前期比マイナス幅が縮小、15.0 ポイント改善した。地区別にみると、三石、えりも、広尾地区が改善し、浦河、様似地区は横ばい、静内地区で悪化している。

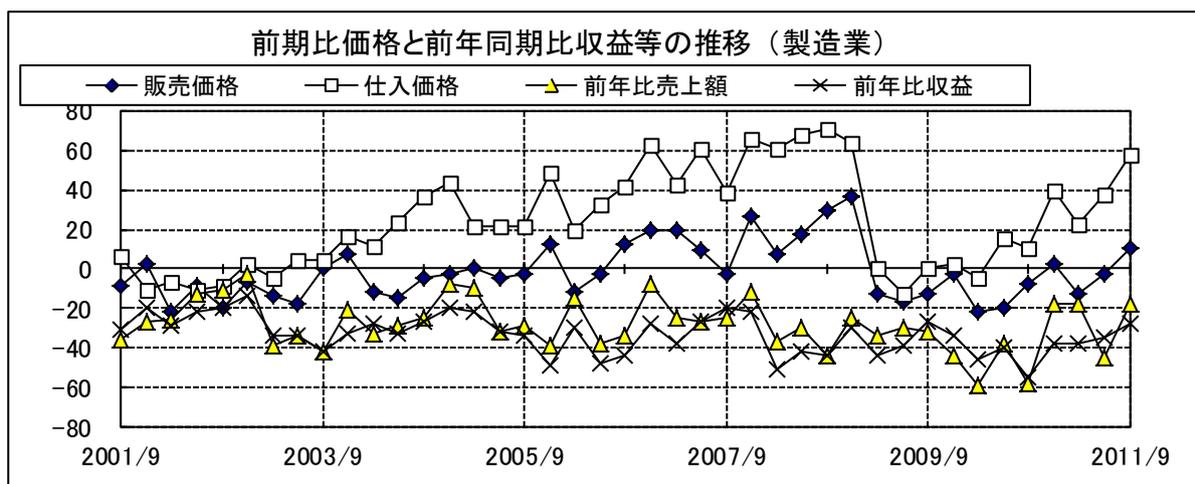
売上額、収益判断DIは、売上額が△10.0、収益が△20.0 と、前期比それぞれマイナス値が縮小し17.5、12.5 ポイント改善した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
販売価格	-12.5	-2.5	10.0	22.5
仕入価格	22.5	37.5	57.5	55.0

販売価格判断DI (10.0) は、前期比 12.5 ポイント上昇、マイナスからプラス値に転じ、価格上昇基調となっている。仕入価格判断DI (57.5) は、前期比 20.0 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、食品が販売、仕入価格ともに上昇、木材は販売価格で上昇、仕入価格は横ばいとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
残業時間	-20.0	-12.5	-12.5	12.5
人手状況	17.5	20.0	5.0	-22.5

残業時間判断DIは△12.5 と、前期比横ばいの値となった。

人手過不足判断DIは5.0 と、前期比プラス幅が縮小し15.0 ポイント低下、人出過剰感を弱めている。

□ 設備投資の動き

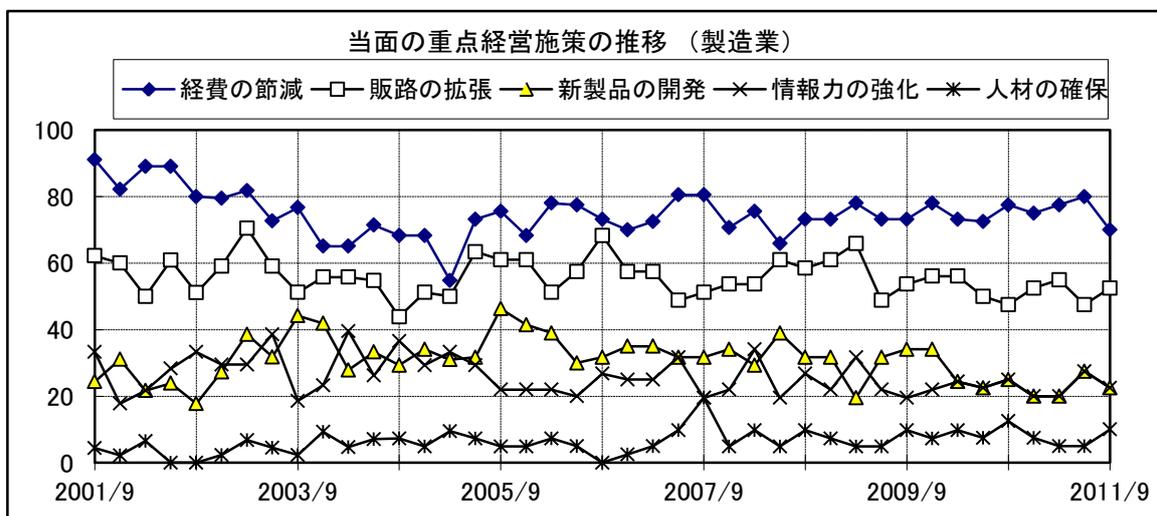
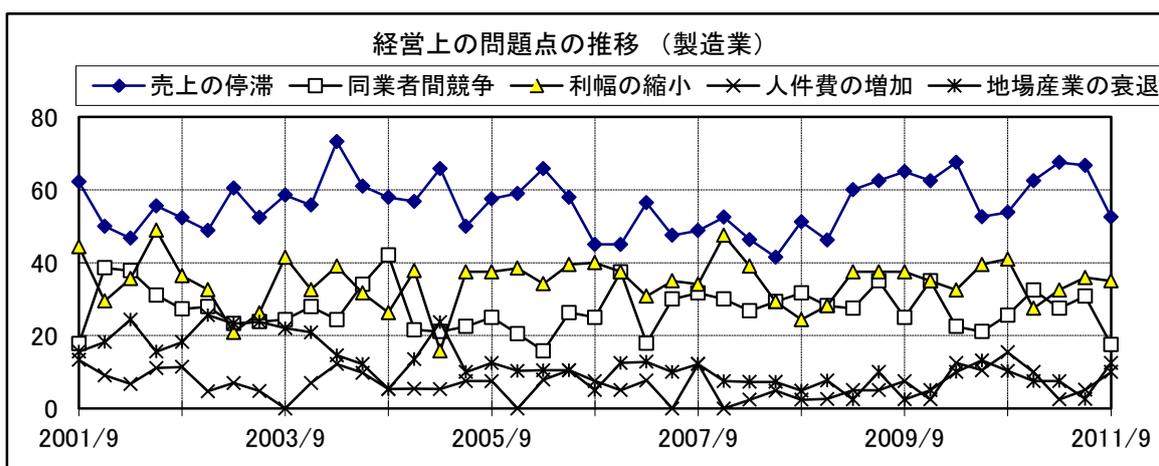
設備投資の充足感を示すD Iは $\Delta 10.0$ と、前期 ($\Delta 15.0$) からマイナス幅が縮小し不足感を弱める一方、適正と回答した企業は85.0%と、前期 (75.0%) から10.0ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は12.5%と、前期 (20.0%) 比7.5ポイント下降、件数で前期の8社に対し5社の実施となった。来期予定は当期比2社減の3社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ52.5%、次いで「原材料高」45.0%、「利幅の縮小」35.0%、「工場機械の老朽化」20.0%に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ70.0%、次いで「販路を広げる」52.5%、「情報力の強化」22.5%、「新製品の開発」17.5%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期 (平成23年10~12月期) の予想業況判断D Iは $\Delta 15.0$ と、今期 ($\Delta 32.5$) 実績比17.5ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が5.0 (今期 $\Delta 10.0$)、収益が $\Delta 7.5$ (今期 $\Delta 20.0$) と、今期実績比それぞれ15.0、12.5ポイント上昇見通しとなっている。

予想販売価格は22.5 (今期10.0) と、今期実績比12.5ポイント上昇し販売価格の上昇基調が強まる見通しとなっている。予想仕入価格判断D Iは55.0 (今期57.5) と、今期実績比2.5ポイント下降し仕入価格の上昇基調がやや弱まる見通しとなっている。